

株式会社 中央製作所

DX宣言書

2026年9月25日
株式会社 中央製作所
代表取締役社長 金子 龍一

□ 経営理念

「ものをつくる、よここびをつくる」
技術と経験を磨き、社員一人ひとりの力を結集して、
お客さまに「買ってよかった」と喜ばれるものづくりを追求し続けます

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ 生産・在庫・見積情報をデジタルで可視化・連携し、社員一人ひとりが共通の情報を基に主体的に動ける体制を構築します
- ◆ 蓄積したデータを経営判断と商品企画に活用し、お客さまに喜ばれる商品を継続的に生み出すことで、「自ら提案し、選ばれるメーカー」を目指します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ～ 2027年9月)

戦略 「現場情報のデジタル化と業務効率化の推進」

- 施策
- ・ 勤怠管理等の身近な業務からデジタル化を進め、効率化を社員が実感することで、社員のDX推進に対する理解と納得感を醸成
 - ・ 日報の電子化と現場での生産実績データの直接入力を推進することで、転記作業の削減および生産数のリアルタイムでの把握を実現
 - ・ 日報データの精度向上に向け、ダブルチェックを行うなど、入力ミスを防止する運用ルールを整備
 - ・ 社内情報を安全に共有するため、情報ツールの検討と個人端末の利用に関するルールを整理

➤ フェーズ2(2027年10月 ～ 2028年9月)

戦略 「情報連携体制の構築」

- 施策
- ・ 生産実績データを在庫情報へ自動反映する仕組みを構築し、在庫状況をリアルタイムで可視化し、迅速な資材の発注を実現
 - ・ トラブル履歴、不良品情報をデータベース化し、過去事例を迅速に検索・活用できるナレッジ共有基盤を構築
 - ・ トラブルへの対応力向上のため、生産・作業記録等のエビデンスをデジタルで記録・管理する仕組みを整備
 - ・ 現場担当者や外注先(内職部門)との情報共有が可能なツールを導入し、作業指示・進捗報告・不良品報告を迅速に連携できる環境を整備

➤ フェーズ3(2028年10月 ～ 2029年9月)

戦略 「データ活用による経営判断と商品企画力の向上」

- 施策
- ・ 部門間の情報連携と迅速な経営判断を実現するため、生産・在庫・発注情報の連携により、管理者がクラウド上で主要情報をリアルタイムに確認できる仕組みを構築
 - ・ デジタル化を更に進めるため、同業他社のAI活用事例や業務への活用ノウハウを社内で共有
 - ・ 商品企画力を高めるため、外部デザイナー等との企画・デザイン情報の共有・連携を推進
 - ・ 喜ばれる商品づくりと自社ブランドの強化に向けて、商品情報やエンドユーザーの声・反応を収集・蓄積し、商品企画・改善に活用する仕組みを整備

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役社長がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・ DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- ・ 勤怠管理ツールの導入 : 2028年9月 完了
- ・ 生産・作業記録のデジタル化 : 2029年9月 完了
- ・ 顧客の声を活用した商品企画・改善件数 : 3件以上(～2029年9月)